

2025 年度 自己点検・評価報告書

教職大学院評価分科会

2026 年 3 月

基準5 学生の受け入れ

1. 学生の受け入れのための広報活動全般について、適切に実施しているか。

- ・オープンキャンパスにおける取組み
- ・授業体験や姉妹校との連携事業などの実施状況

【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

【2024年度の自己点検・評価で課題となった事項】

「2024年度最終報告書」（2025年2月12日提出）で詳述した事項のうち下記4つの重点項目：

- ① 新「教員養成5年一貫プログラム」（「学部・教職大学院5年一貫教員養成プログラム」）の2026年度運用開始を見据えた準備
- ② 教職大学院主催のフォーラム等での教職大学院修了生組織との協働
- ③ 「オンライン進学相談会」の充実による潜在的な志願者の掘り起こし
- ④ 外部向け無料オンライン講座（「教師力・授業力アップセミナー」）の充実

【2025年度の方針・改善計画】

- ① ～④の継続・充実

【2】今年度の取組みに関する点検・評価結果

- ① 「教員養成5年一貫プログラム」（「学部・教職大学院5年一貫教員養成プログラム」）は、予定通り、2026年度より運用開始となる。詳しくは、以下URLより「2026年度学部・教職大学院5年一貫教員養成プログラム募集要項」を参照のこと。
入試情報 教職大学院>学部・教職大学院5年一貫教員養成プログラム
<https://www.soka.ac.jp/admissions/graduate/kyoshoku/>
- ② 2025年10月11日（土）、教育学部棟において、在院生に加え、多数の修了生の参加を得て、「教職大学院フォーラム」を開催した。本フォーラムは二部構成とし、午前の部では、主として修了生を講師とする教育ワークショップを実施した。午後の部では、基調講演を含む「教職大学院修了生大会」としての意義を位置づけた会を開催した。本フォーラムを通じて、通常は接点の少ない在院生と修了生が相互に交流する機会を設けることにより、現場と大学院を結ぶ媒介としての機能が期待されるとともに、修了後の継続的な支援体制の構築や、新たな志願者の掘り起こしに資する有効なチャンネルとなるものと考えている。
- ③ 2025年度において、計4度にわたり「オンライン進学相談会（入試説明会）」を実施した。オンライン進学相談会は、原則一人につき30分の個別相談としており、Zoomを使用して行った。詳しくは、以下URLを参照のこと。
入試情報 教職大学院>教職大学院 オンライン進学相談会
<https://www.soka.ac.jp/admissions/graduate/kyoshoku/>
- ④ 2025年度において、計7回度の外部向け無料オンライン講座（「教師力・授業力アップセミナー」）を行った。詳しくは、以下URLを参照のこと。
教職大学院>研究科について>教師力・授業力アップセミナー
<https://www.soka.ac.jp/grad-edu/about/>

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画結果

2026年度も上述の①～④を継続的に実施する。

2. 合格者に対する入学前教育等を適切に実施しているか。また入学後の学生に必要な支援（リメディアル教育・初年次教育等）を実施しているか。

【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

【2024年度の自己点検・評価で課題となった事項】

「2024年度最終報告書」（2025年2月12日提出）において詳述した通り。

【2025年度の方針・改善計画】

「2024年度最終報告書」（2025年2月12日提出）において詳述した通り、必要に応じて、対策を講じる。

【2】今年度の取組みに関する点検・評価結果

特になし

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画結果

特になし

学生の意見聴取

【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

【2024年度の自己点検・評価で課題となった事項】

「2024年度最終報告書」（2025年2月12日提出）で詳述した下記事項：

- ① 「教職大学院を語り合う会」の継続
- ② ホームルーム長会の継続・充実
- ③ 「学びのデザインシート」「学びのリフレクションシート」（運用中）の充実

【2025年度の方針・改善計画】

- ① ～③の継続・充実

【2】今年度の取組みに関する点検・評価

- ① 2025年9月17日及び2026年1月21日の計2回にわたり、「教職大学院を語り合う会」を実施した。本会は、院生からの意見を直接聴取することを目的とした意見交換の場として、2008年の教職大学院設立以来、継続的かつ定期的に開催されてきたものである。本会では、授業内容や教育方法、教育・研究機関としての設備・施設、さらには院生生活全般に至るまで、多岐にわたる事項について意見が提示される。形式にとらわれない自由闊達な意見交換を通じて、院生が抱える課題や要望を具体的に把握するとともに、今後の教育内容及び学修環境の改善に向けた基礎資料を得ることを主たる目的として開催している。
- ② 2025年度においても、学期期間中に限り、原則として月に一度の頻度でホームルーム長会を実施した。本会には、各ホームルームの院生代表に加え、学生委員会に所属する教員が出席し、院生生活の充実及び学修環境の向上を目的とした意見交換及び情報共有が行われた。上述①の「教職大学院を語り合う会」とあわせて、教職大学院における院生と教員との間の円滑な意思疎通を促進し、風通しの良い関係構築に寄与している。

③ 全院生を対象として、「学びのデザインシート」を春学期及び秋学期の冒頭に各1回、計2回実施するとともに、「学びのリフレクションシート」を秋学期末に1回、滞りなく実施した。これらのシートは、院生が自身の学修目標や学修過程、成果及び課題を可視化し、主体的な学びを促進することを目的として運用している。記載された内容については、「教職課題研究Ⅰ・Ⅱ」の授業内において、院生が指導教員に対し口頭で直接報告を行うとともに、所定のBOXへのアップロードを義務付けている。提出されたシートは、専任教員に限り常時閲覧可能な体制が整備されており、直接の指導関係にない院生についても、その学修状況や課題意識を教員間で共有することが可能となっている。これにより、個々の院生に対する指導の質的向上のみならず、教員間における共通理解の形成が促進され、組織的かつ一貫した学修支援体制の構築に資する取り組みとなっている。

【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画

2026年度も上述の①～③を継続的に実施する。

以上